

地対協コーナー

今号では、4月に開催された委員会の報告をお届けします。4月28日(木)には、第1回救急医療体制検討特別委員会を開催いたしました。この委員会では、広島県が運営する救急医療情報ネットワークの更新について検討しております。詳細は、報告をご確認いただければと思いますが、今後新たなシステム導入に向けて実証実験を行うこととし、実証実験の具体的な進め方については、WGを立ち上げ検討することとされました。

皆さまのご要望やご意見などがございましたら、遠慮なく、事務局までお寄せください。また、過去の各委員会活動などは、地対協ホームページ (<https://citaikyo.jp/>)へ掲載していますので、アクセスをお待ちしております。

○第1回救急医療体制検討特別委員会

日時：令和4年4月28日(木)19時00分

場所：Web会議

(広島県医師会館 2階 201会議室)

委員長：志馬 伸朗

救急医療情報ネットワーク(救急搬送支援システム)の更新について、関係機関へのアンケート結果を報告し、今後の整備方針、スケジュールについて整理した。現行システムの終了時期と、次期システムへの更新に向けた実証実験を実施すること、具体的な検討を行うためWGを立ち上げることが承認された。

協議事項

救急医療情報ネットワーク(救急・搬送支援システム)について

広島県健康危機管理課から救急医療情報ネットワークの今後の方向性について、救急医療関係者(医療機関、消防)へのアンケートを基にシステム整備方針の説明があった。あわせて、現行システムの運用を現契約期間終了時の令和5年9月末までとし、令和5年10月から令和7年9月までの2年間を次期システムの導入に向けた実証実験期間とするスケジュールが示された。

また、次期システムに盛り込む機能について、3月に行ったアンケートの回答状況が報告された。

傷病者情報のタブレット入力による登録については、救急隊必須の業務であるプレホスピタルレコードの記載と他の業務との二重業務になる恐れもあるため、電子化が必要と回答があった。また、入力のタイミングや必須項目についても実証実験を行いながら検討を行うこととした。

応需登録は、入力負担に対し有効活用されないことから、次期システムの機能として採用しないこととした。また、一斉受入要請、搬送実

績の登録については、都市部以外ではニーズの無い機能ではあるがプレホスピタルレコードが電子化され、負担なく入力が行われる場合、データは蓄積し検証可能な状態となるため、都市部においては実証実験を行い検討することとした。

観察メモ、医師の署名等の電子化、入力支援に関しては実証実験において検証、検討することとした。

他のシステムやアプリとの連携については業務効率化を目指したメッセージアプリや電子カルテとの連携を実証実験において検証していくこととしたが消防OAシステムとの連携は時期尚早との意見が多数であったため見送ることとなった。

予後情報登録については各圏域においてシステムを活用しない形での取り組みが定着しているが、機能として必要という回答もあったことから実証実験で検証することとした。

今後の予定としては、救急・搬送支援システム実証実験のためのWGを立ち上げ、環境整理を行うこととした。WG長は広島県MC協議会救急搬送・医療提供体制検討部会長でもある県立広島病院の楠真二先生に依頼することとしている。委員には医療関係者として広島大学病院高度救命救急センターの医師、各圏域の救急搬送・医療提供体制検討部会委員に参画いただく予定としており、消防関係では県内全ての消防から参画いただく予定としている。

報告事項

広島市立北部医療センター安佐市民病院の救命救急センター指定について

令和4年5月1日の移転・運営開始に合わせ広島市立北部医療センター安佐市民病院を新たに地域救命救急センターとして指定する旨の報告があった。